F2-23

地方都市における複数の公共空間活用の傾向

Trends in the use of multiple public spaces in local cities

○溝口萌[1]，竹中彩[1]，泉山塁威[2]，宇於﨑勝也[2]
*Moe Mizoguchi[1]，Aya Takenaka[1]，Rui Izumiyama[2]，Katsuya Uozaki[2]

Abstract：In this study, as a trend of multiple public space utilization in regional core cities in Japan, it can be said that utilization spaces tend to be utilized as spaces that can be used in accordance with demand compared to other spaces, mainly because multiple types of public spaces are utilized and roads can be used together with buildings along the road. The same space can be used for multiple types of activities, which tends to encourage users to utilize the space in various ways. Regardless of the type of public space or the type of activity, the use of multiple public spaces and multiple activities are expected to lead to daily use of the space, as it becomes a base for staying and working within the district.

１-１．研究の背景及び目的

我が国の地方都市では，地域活力の低下のなか，公共空間を「車中心」から「人中心」の空間づくりへ移行する「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指す地方自治体が増加している[1]．また，公共空間活用のため，注目されるプレイスメイキング[1)][2]の中では，「どのような規模の都市にも 10 箇所以上の目的地・場所・活動で構成される[3]」とする概念である Power of 10+が提唱され，国内で複数の公共空間の活用による活気ある都市の形成が図られている．

複数の公共空間活用により，新たな活動が生まれ，周囲に波及することで，公共空間活用が都市全体に面的に広がり，利用する公共空間や活動の選択肢が，豊かになると考えられる．また，公共空間での日常的な利用に繋がり，人の活動が豊かになることで，地域活力の向上につながると考えられる．そこで，複数の公共空間を活用する事例を分析することで，今後，複数の公共空間の活用による活気ある都市の形成を目指す地方自治体の方針や活用プロセスの参考となると考えられる．

本研究では，大都市圏を除く地方都市において，制定された都市再生整備計画(以下，整備計画)から公共空間の活用空間の種類及び活動内容を把握し，複数の公共空間活用の傾向を明らかにする．

１-２．研究の方法

本研究では，ウォーカブル推進都市[4]に賛同する大都市圏を除く地方中核都市の中で，整備計画を策定し，現在，公共空間の活用を実施する 7 都市，11 計画を対象とし，公共空間の活用事業を活用空間，活動内容を整理し，複数の公共空間活用の傾向を明らかにする．

２．公共空間活用の傾向

２-１．活用空間の種類

公共空間活用されている空間の種類は，道路(36 件)，公園(37 件)に集中していた(Table1.)．

道路空間は，公園や広場に比べて，沿道店舗などと一体的な活用が可能なため，状況や需要に対応した活用しやすいと考えられる．

各地区の公共空間活用を見ると，10 地区で種類を問わず複数の公共空間の活用がある．中でも，オリオン通り(江野町・曲師町地区)，柏中央地区，乙川リバーフロント QRUWA 戦略地区が一種類の空間を複数活用する整備計画であった．また，阪神大物周辺駅地区，尼崎市コミュニティサイクル推進地区，宮崎市中心市街地地区が 1 つの公共空間のみを活用している．

複数種類の空間よりも同種類の空間を複数活用する傾向があり，複数の公共空間を活用する場合には，公園や広場と道路を合わせて活用する傾向がある．

２-２．活動内容

公共空間活用の活動内容では，広告物（139 件)，サイクルポート(75 件)，オープンカフェ(16 件)，食事施設(15 件)，休憩施設(14 件)の順で多い(Table1.)．また，一つの活用空間で行われている活動内容の種類を見ると，柏中央地区，柏の葉キャンパス駅・柏たなか駅周辺地区，乙川リバーフロント QRUWA 戦略地区，倉敷市中心市街地活性化基本計画第 3 期計画地区，宮崎市中心市街地地区において活動内容が複数見られる．

広告物やサイクルポートは，比較的面積を要せず，多くの量を設置できるため，活動が多いと考えられる．また，複数の活動内容があることで，利用者に活動の選択肢が生まれ，一つの空間で多様な活動が発生することが推察される．

１：日大理工・院(前)・建築　Graduate school of Nihon Univ.　２：日大理工・教員・建築　Nihon Univ.

３．まとめ

日本の地方中核都市における複数の公共空間活用傾向として，活用空間は複数種類の公共空間を活用し，主に道路が沿道の建物と一体的な活用が可能なため，他の空間と比較すると需要に合わせた活用できる空間として活用される傾向があるといえる．

活動内容は，地区内に複数設置できるものが多い傾向にあり，同様の空間に複数種類の活動内容があることで，利用者が様々な活用を促す傾向があるといえる．

公共空間の種類や活動の種類を問わず，複数の公共空間を活用し，活動内容を複数行うことで，地区内での滞留や活動の拠点となり，日常的な利用につながることが期待される．

今後の展開として，整備計画以外の計画や事業において公共空間活用があることも考えられるため，他の計画など併せて確認することで，さらに地区内での公共空間活用の実態に迫る必要がある．

参考文献

[1]国土交通省：「居心地が良く歩きたくなるまちなかを目指して」，https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi09_hh_000052.html，(最終閲覧日：2023 年 9 月 20 日)

[2]Project for Public Spaces：「 What is Placemaking」，https://www.pps.org/article/what-is-placemaking，(最終閲覧日：2023 年 9 月 28 日)

[3]Project for Public Spaces，：「The Power of 10+」，https://www.pps.org/article/the-power-of-10，(最終閲覧日：2023 年 9 月 28 日)

[4]国土交通省，「ウォーカブル推進都市一覧」：https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001623969．pdf，(最終閲覧日：2023 年 7 月 28 日)

補注

1) 米国発祥のコミュニティを中心として公共空間を再考し，再構築するための協働プロセスのこと

2) 各地方自治体のホームページに掲載されている都市再生整備計画を基に作成

Table1.　協定制度等取り組みによる公共空間活用状況[2)]

No.	都道府県	市町村	地区名	計画開始（年度）	主体	都市再生推進法人	空間名称	活用空間※1				活動内容※1※2							制度名					
								道路	公園	河川	広場	オープンカフェ	食事施設設置	休憩施設設置	広告物設置	歩道管理	サイクルポート	その他	道路占用許可の特例	河川敷地占用許可の特例	都市利便増進協定	都市公園の占用許可の特例	滞在快適性等向上区域	一体型滞在快適性等向上事業
1	栃木県	宇都宮市	オリオン通り（江野町・曲師町地区）	2023	NPO法人宇都宮まちづくり推進機構	●	オリオン通り	2				2							●					
2	千葉県	柏市	柏中央地区（第２期）	2019	一般財団法人柏市まちづくり公社	●	北口自由通路（歩道部）	●							●				●					
							柏市道01075号線（柏駅西ロダブルデッキ歩道部）	●							4				●					
							柏市道01075号線（柏駅東ロダブルデッキ）及び1階ウッドデッキ	●				7	●		29				●					
							南口自由通路（歩道部）	●							36				●					
3			北柏駅周辺地区（第２期）	2022	一般財団法人柏市みどりの基金		大堀川			●								●		●				
						●	柏市中村新田（無地番）			●								●		●				
							北柏ふるさと公園		●				●								●			
							柏ふるさと公園		●				●								●			
4			柏の葉キャンパス駅・柏たなか駅周辺地区	2019	UDCKタウンマネジメント	●	柏市道01030号線歩道部	●					●						●					
							柏市道03254号線	●					●						●					
							柏市道03256号線	●					●						●					
							柏市道03257号線	●					●						●					
							柏市道21139号線歩道部（ウッドデッキ部分）	●					●						●					
							柏市道03294号線	●					●						●					
							柏市道03295号線	●					●						●					
							柏市道01030号線	●							●				●					
							駅前広場交通島及び歩道部照明柱				●				●				●					
					一般財団法人柏市まちづくり公社	●	柏たなか駅前公園		●					●				●			●			
5	富山県	富山市	富山市中心市街地地区（第4期）	2021	株式会社富山市民プラザ	●	グランドプラザ				●							2			●			
					協同組合総曲輪通り商盛会		総曲輪通り	●						5	61				●					
6	愛知県	岡崎市	乙川リバーフロントQURUWA戦略地区（第2期）	2021	株式会社まちづくり岡崎	●	康生通り	●				●	●	●	●	●			●		●			
					株式会社三河家守舎		連尺通り	●				●	●	●	●	●			●		●			
						●	市民会館通り	●				●	●	●	●	●			●		●		●	
							二七市通り（八幡通り）	●				●	●	●	●	●			●		●			
7	兵庫県	尼崎市	阪神大物駅周辺地区	2022	阪神電気鉄道株式会社	－	中央公園		●				●	●	●								●	●
8			尼崎市コミュニティサイクル推進地区	2021	尼崎市（実施主体），市と協定等を結んだ事業者（運営主体）	－	都市公園		20								20					●		
9	岡山県	倉敷市	倉敷市中心市街地活性化基本計画第三期計画地区	2021	倉敷まちづくり株式会社	●	滞在快適性等向上区域内の民地	●			●	●		●	●	●		●			●		●	
					滞在快適性等向上区域内土地所有者など	－	滞在快適性等向上区域	●				●		●		●								●
10	宮崎県	宮崎市	宮崎市シェアサイクル推進地区	2020	交通事業者など	－	国道及び市道上（サイクルポート）	15									42		●					
							公園（サイクルポート）		13								13					●		
11			宮崎市中心市街地地区	2023	民間事業者	－	滞在快適性等向上区域内の民地				●	●		●				●					●	●
							Total	36	37	2	4	16	15	14	139	6	75	7	20	2	9	2	4	3

複数種類の活用がある　同種類の空間の活用が複数ある　同空間で複数の活動　※1 複数あるものは数値を記入　※2 活動内容は設置区域毎にカウント